

第1回お城を中心としたまちづくり懇話会の懇談概要

日時：平成20年7月17日（木）

午前10時00分～午前11時55分

場所：盛岡市庁舎別館 4階403会議室

- 開会
 - あいさつ
 - 委員紹介及び欠席者の報告
 - 座長、副座長の選出
 - ・ 座長 倉原委員
 - ・ 副座長 斎藤委員
 - 懇話会の公開について
 - ・ 基本的には公開する。ただし、検討過程あるいは意見交換において、個人的な情報に属することについては非公開とする。
 - ・ マスコミへの取材対応は、その都度応じることとする。
 - ・ 懇話会の内容はオープンにすることで、市民等に知ってもらうほうが良い。
 - 懇話会の役割と進め方
 - 第1回の懇談テーマ
 - 次のことを中心に意見交換をすることとする。
 - ・ 「史跡と共存した盛岡城跡公園の整備について」
 - ・ 「盛岡城跡公園周辺地区を含めた公園の利活用について」
 - お城を中心としたまちづくり計画（素案）の説明
 - 各委員からの自己紹介
 - 懇談内容
 - 史跡と都市公園の制限について
- 事務局：盛岡城跡公園における3種類の区域について。
- ・ 都市公園の区域：(昭和31年都市計画決定)
事業実施がいつになるかわからない区域については、全ての制限を加えるのではなく、現実的には土地の所有形態も踏まえながら、建築物に一定の行為の制限をかけている。
 - ・ 国指定史跡の区域：(昭和12年国の史跡指定)
史跡は、国民全員の財産であることから、現状のまま保存することを基本としている。
 - ・ 都市計画道路：桜山商店街と盛岡城跡公園の間の部分
- 委員：桜山地区が緑地化しようという議論があったが、どのような観点から、その

ようになったのか聞きたい。

事務局：桜山地区を緑地化しようという話は、行政が地元との懇談の場で「(桜山地区を含めた盛岡城跡公園は)都市公園として計画されている。その計画においては緑地化を図ることとなっている」と説明したことからである。また、都市公園の整備計画により、桜山地区の建物を取り壊すことは可能であるが、これまで様々な事情から、取り壊す方向に進んでいないのが現状である。

委員：過去に都市公園として決定されたことを知らない市民がいる。そして、取り壊さなければならないという事実を知らなければ、これから(桜山地区のまちづくり)の話し合いにならないのではないか。

○ 鶴が池、亀が池の浄化について

委員：鶴が池・亀が池の浄化のため、指定管理者とボランティアが池の掃除を行っている。

事務局：市では実施計画の取り組みとして、下記の2点について検討している。

- ① 取水量の増量による水質改善。
- ② 池の清掃活動等による水質改善。

○ 盛岡城跡公園の案内説明について

委員：盛岡城跡公園は自然公園であり、史跡指定区域でもあることから、その両面について考える必要がある。委員から歴史的な案内板も少ないと指摘がありましたが、実は、植物の案内も少ない。しかし、その全部に看板や札をつけたりすることは、景観上良くないと思われるので(それを補うための)公園の植物マップやユビキタスマジューリアム等を作るのはどうか。

座長：公園についての情報をたくさん発信したい、案内板などいろいろ置きたいという気持ちがある中で、一方で、置きすぎてしまうことは景観上よろしくないということもある。それらの相反することについて、そのバランスをどう保っていくかが課題となる。また、一方で都市開発的な整備したい、一方で守るところはどうするべきかなど、作ることとそのままにしておくことのバランスが大事なことではないかと思います。

○ お城への導線計画について

委員：「公園という間口を使って、史跡を世に伝えていく」という形をとっていくことがベストだと思う。まずは引き込む間口をしっかりと作った上で、史跡指定されている部分の情報を皆に伝えていく作業をしなければならない。

座長：公園周辺から引き込む間口もあるが、一方で、広いエリアから引き込む間口も考えられる。もしその変のアイディアや意見があれば懇話会の場で参考に

なるので出して欲しい。

委員：大通り方面からの方向を駅から向けて欲しい。(現在の一方通行の方向が疑問である。)

委員：歴史的に見れば町の中心は明治橋であった。しかし、戦後、盛岡駅ができたとき駅から人を引っ張るために流れを作ろうとした経緯があり、今でもそれが残っている。もし根本的に一方通行の向きを考えるのであれば、一方通行を逆にする、もしくは、公共交通により、駅から八幡宮まで、人を車ではない形で流すようにする方法もあるのではないか。

都市整備部長：『中心市街地活性化基本計画』では、起点となる場所が盛岡城もしくは盛岡駅、あるいはバスセンターを軸として結ぶなど周辺を含めた中でのアクセスを大事にしようとしている。具体的には、菜園通りがお城の石垣が自然に見えることから、駅からの導線の整備を行う予定となっている。

○ ヒマラヤシーダについて

委員：石垣が周辺から見えなければ、お城があったとは思わない。そのためには、「石垣があってお城があったんだ」「盛岡城の公園だ」「じゃあ行ってみようか」、と思うためには樹木の整理も必要ではないのか。

座長：樹木を切るか切らないかは賛否両論である。お城そのものの景観にも関わることから、樹木を整えるというアイデアではどうか。

事務局：ヒマラヤシーダについて補足しますと、かつての図書館の時は、ヒマラヤシーダは遮蔽効果を狙って植えられており、静かな環境で勉強に勤しむためには最適であった。しかし、歴史文化施設（H23 年開館予定）は集客施設であることから、施設の場所が観光客に分かりやすくなければならないと考える。そのためにも、市では歴史文化施設から中津川に向けた導線計画を持ち、中津川沿いの木やヒマラヤシーダを整理し、公園内に建物があることを分かりやすくしたいと考えている。

委員：(当時の盛岡に)「せっかくないもの」をというのも分かるが、(ヒマラヤシーダは)カナダなどの大自然の中で、30m、40mの高さになることで「あるな」っていうほどのもの。最初に木を選ぶ時点で間違ったかなという気がしている。

都市整備部長：しかし、ミュージックフェスティバルでは、騒音等もだいぶ抑えられたという効果もある。

座長：かなり多角的に考えていかないと見えてこないところもありますので、考えるべき材料だということは確認しても良いのではないかと思います。

○ 盛岡城の正面性について

委員：公園へのアクセスはそれほど悪くはないが、どこも正しい入り口ではないと思う。「本当の正門はどこなのだ」と言われると難しい。

委員：看板の中で「これが昔のお城の入り口」という情報が必要になってくると思う。一の鳥居の前の内丸緑地を有効に活用できれば、盛岡城跡の正面がわかり、そこで公園等についての情報も発信できれば、将来にうまくつながるのではないか。

○ 内丸緑地について

事務局：内丸緑地は、国・県・市の官公庁の施設を集約された区域の中に、一定の緑地水準を確保するために整備した緑地である。内丸緑地の有効活用については、桜山神社参道地区との一体化をどうはかるべきかを考えながら、緑地としてどのように使えば良いか検討することが基本になってくる。

委員：「夕暮れ時にジャズコンサートをやってはどうか」という話をする人もいる。市民に開放された場所として、もっと有効活用できるのではないかという話もよく聞く。情報等を発信するスペースとしても検討して欲しい。

事務局：再整備案で頂戴したいと思う。

○ 観光客への情報発信について

座長：盛岡城跡公園ガイドマップは良くできていると思うが、実際に活用されているのでしょうか。

委員：会議の場に来ると、このように出していただける。

委員：活用ということからすると、観光客がガイドマップをどこでもらうのかということが重要である。導線からすれば、桜山神社やその周辺に情報を渡す施設があれば、絶対的に観光客には親切である。

○ 史跡区域内での建築等の制限について

歴史文化課：・史跡内にガイドマップなどを配布する建物などを建てようとしたとき、市に盛岡城跡の保存管理計画がないということが大きなポイント（課題）である。

- ・全国の事例を見ても、史跡を保存する立場としては、史跡の中に駐車場やそれに類似した施設を整備してはだめだということは一切言っていない。

- ・しかし、施設整備のために文化庁の補助金を活用すると、史跡の保存や活用するための目的でないものは目的外使用として位置づけられる。

- ・目的外使用に抵触すると、会計検査において指摘されるので、別の省庁の予算で土地を購入するなど、文化庁が認める方向で何かを考えること

が大きなポイントとなる。

- ・今、文化庁でも、(盛岡城跡のような) 戦前からの史跡については、指定当時の考えとは違うのではないのかという考えも当然出てくるだろうと思っている。そのためにも、桜山のような区域において、指定史跡をどう保存していくのかという管理計画、もしくは、整備計画を策定する段階で、懇話会などからの意見等を併せて検討していくことが良いと考える。
- ・史跡内において、保存のための施設と公開のための施設の整備は良いとしていることから、その計画を文化庁に積極的に持っていくということがポイントではないか。

○ 賑わい創出のための取組みについて

委員：中津川で子供たちが川遊びをしている光景をよく目にする。川という特色を活かし、中津川河川敷に川水浴場や川の家を建て、皆が安心して集まれる環境にしていけば良いのではないか。実際に、川水浴場というのは全国にあるようなので、是非そうしてもらえると良い。

座長：日本初の川の家をひとつのアイディアとしてはどうか。

委員：市街地においてマラソン大会をやりたいと思っている。歩いても気持ち良い町なので、走っても気持ち良いと思う。川を中心にお城の中も子供たちと走ったら、とても思い出となり、愛着もわく。大人と子供と一緒に汗を流し、そのあと、町に出てご飯を食べたりすることで、いろいろコミュニケーションが生まれたりすると思う。

□ まとめ (座長)

- ・盛岡にとって「本物」を追求することは大事なことであり、そうした中でお城というのは極めて貴重なものである。
- ・「子供たち」をキーワードとして周辺の整備を考えることで、「今の子供たち」、「自分が小さかったときの子供たち」の経験が未来・過去・現在をうまくつなげていけるのではないのか。
- ・公園区域と史跡指定区域という二重の線引きが盛岡城跡公園を難しくしているが、逆にそこに大きなヒントがある。「変わるもの」・「変えるもの」・「変えなきゃいけない部分」もあれば、一方で、「このまま保存しておくべき」部分もある。それらを整理することによって、使いやすい、親しみやすい公園になるのではないか。
- ・公園にはいろいろ制限や分野があり、縦割りのなところがある。しかし、公園を考えるいい機会として、いろいろな分野が横断的に結ばれることで(盛岡城跡公園の活用に向けて) 一個進むのではないか。

- 公園の活用を考えたとき、「歩いて楽しい」、「走っても楽しい」、加えて、「座っても宴会しても楽しい」とすると、「歩いて」、「座って」、「走って」と動く速度で眺めてみると、整備すべき方向が見えてくるのではないか。
- 「お城ってなんなの」ということを改めて問うべきではないのか。
- 美しい町というのは、中心にしっかりとしたコアがある。そういう意味で、中心のひとつとして、お城があるということは皆さんが共有していることであり、これからの盛岡市のまちづくりのあり方を示しているのではないか。
- そこに住んでいる方、関わっている方、一人ひとりの独自の個性や考え方、そして、価値観を持ついろいろな人たちが、集まって協力し合いながら何かを進めていくことが、これからのまちづくりではないか。
- 石垣の石もそれぞれ違う形があり、それらがうまく組み合わさることによって美しい石垣を作っている。そのことを協働の仕方に例えるならば、協働、あるいは協力について、同じやり方ではない、いろいろなタイプの新しい協働のあり方を考えるべきということ、石垣が主張しているように思う。
- 協働関係の仕掛けたまちづくりが、これからの私たちの未来像のお城を作っていくという意味で見えてくるのではないか。